

## 教育講演 7



### 脳卒中と clinical outcomes

— 臨床評価のスタンダードから一步先まで —

10月2日(日) 13:00-14:00 会場: 第1会場

総合東京病院  
リハビリテーション科  
北地 雄

司会: 中山 恭秀 (東京慈恵医科大学)

脳卒中は要介護状態に至るおもな原因疾患である。予防が最も重要であることは言うまでもないが、発症後の回復を促進すること、新たなことも含め対象者が再び高い生活の質を取り戻すことも我々理学療法士が担う重要な仕事である。しかし、脳卒中者を集団としてみた場合、脳卒中からの回復は比例回復則に従い、発症前の生活の質に戻ることは容易でない。集団でも個人でも、この回復の幅を知るためには理学療法評価を行わなければならない。根拠に基づく理学療法の実践には根拠に基づく評価が含まれるのである。治療手技が理学療法の花形であるため、そちらに気が向きがちだが、そもそもの効果判定指標の確からしさを知らなければならない。日本基礎理学療法学会の研究領域では理学療法評価学に関する基礎研究がこれに該当する。

本教育講演では脳卒中の予防、回復、生活再建について概説した後、標準的な臨床評価指標を紹介する。次に臨床評価指標の確からしさとは何かを概説し、簡単に参照できるサイトも紹介する。次に信頼性と妥当性の国際基準となりつつある COSMIN の一部を紹介する。時間があればシングルケースにおける臨床評価のポイントも概説する。

本講演のねらいは臨床評価の適応と限界を知ること、またはすぐに参照できるようになること、単一症例でも複数症例でも適切な効果判定ができるようになることである。

